

平成29年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体で学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組（☆）を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成29年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成29年4月18日(火)

4 調査の内容

(国語、算数・数学) 教科に関する調査	主として「知識」に関する問題 (A) ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 【小学校国語A・算数A 各20分】 【中学校国語A・数学A 各45分】	主として「活用」に関する問題 (B) ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など 【小学校国語B・算数B 各40分】 【中学校国語B・数学B 各45分】
	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など 【小学校・中学校とも20分程度】	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

本校の調査結果の概況

国語	A (主として「知識」に関する問題)				B (主として「活用」に関する問題)			
	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等								
話すこと・聞くこと	1	62.5	69.8	69.2	3	61.3	63.1	64.9
書くこと	2	67.0	59.5	60.6	5	49.3	52.6	53.4
読むこと	3	67.9	69.2	70.2	3	47.0	49.2	49.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	79.9	78.1	78.0	0	-	-	-

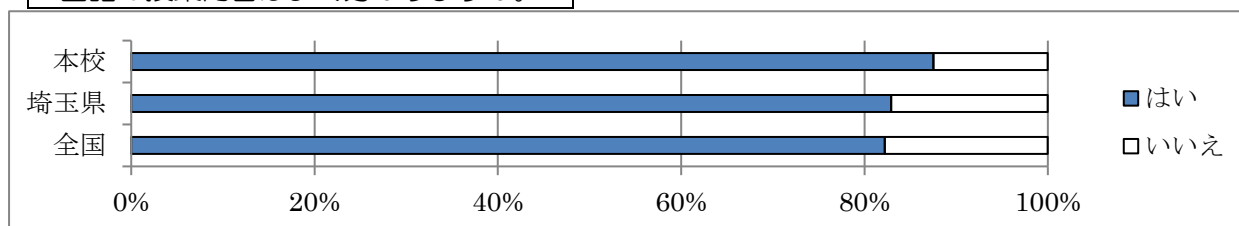
算数	A (主として「知識」に関する問題)				B (主として「活用」に関する問題)			
	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域								
数と計算	8	75.9	77.6	80.6	5	51.8	51.4	52.8
量と測定	2	67.0	66.2	68.8	2	49.1	44.1	47.0
図形	2	82.1	79.6	81.1	1	1.8	11.3	13.2
数量関係	5	73.6	76.3	79.6	8	38.4	38.5	40.0

<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

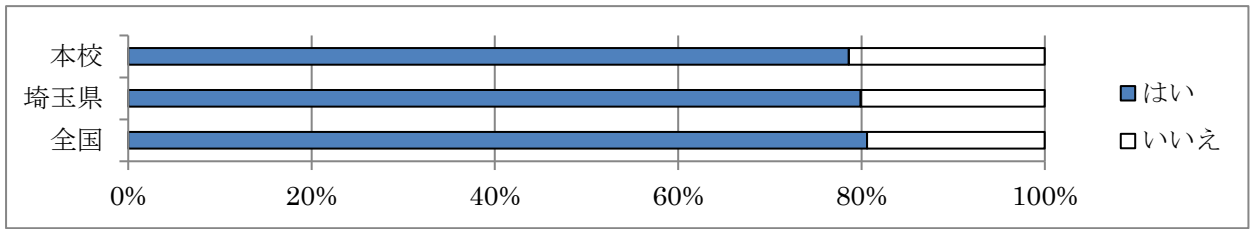
国語の授業内容はよく分かりますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

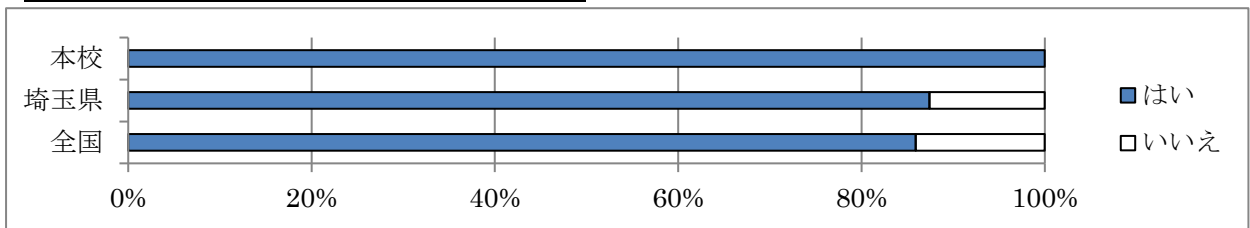
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



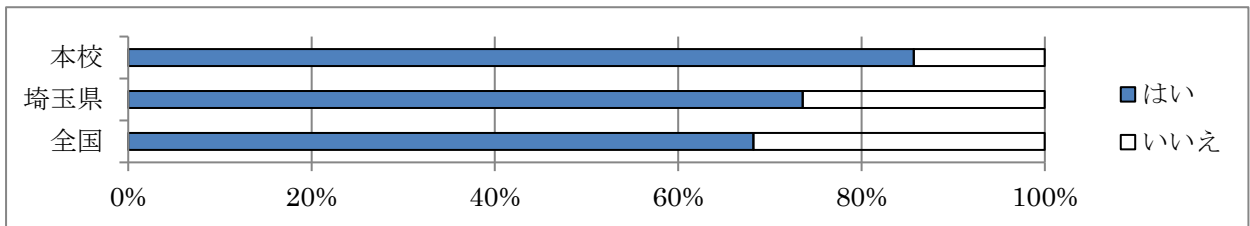
算数の授業内容はよく分かりますか。



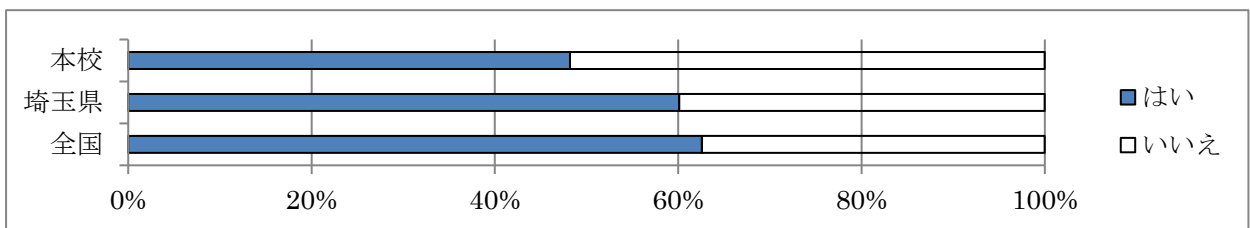
将来の夢や目標を持っていますか。



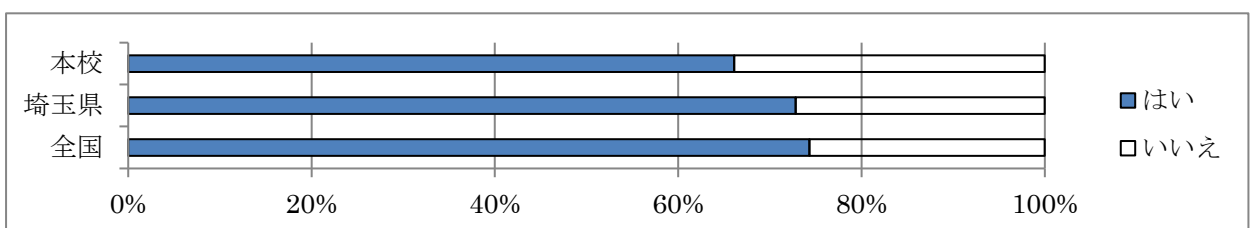
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



今住んでいる地域の行事に参加していますか。



読書は好きですか。



本校の調査結果の分析・考察

<国語A>

- ◆【話すこと・聞くこと】互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合うことに課題があります。
- ◆【読むこと】俳句の情景を捉えることに課題があります。
- 【書くこと】文の構成を理解し、事実と感想や意見を区別して書く力は、県平均・全国平均を大きく上回っています。

【問題（例）】

問題例 学級文集のタイトルを決める話し合いの報告を読んで、報告内容を選ぶ。

正答 3（学級全体で取り上げてほしいことを報告している。）
（本校正答率：62.5%）

【要因】・報告の意図を正しく捉えることができなかった。

- ・いろいろな授業場面での話し合いの機会が不足していた。

【改善策】・話し合いをする際には、目的や目指す到達点などを確認する。

- ・話し合う目的や必要性を意識して話し合いを進めていけるように支援する。
- ・教師が話し合いのモデルを具体的に提示する。

【問題（例）】

問題例 「話し合いを通して自分たちが見つけた俳句のよさ」を選ぶ。

正答 1（言葉のひびきや作者の季節を感じる心）
（本校正答率：48.2%）

【要因】・「俳句のよさ」を適切に捉えることができていない。

- ・国語の美しい響きを感じ取りながら、俳句に親しむ機会が不足していた。

【改善策】・俳句を繰り返し音読したり、俳句のよさについて話し合ったりする機会を設ける。

- ・「だいおうまつくんの国語教室」の掲示コーナーで、児童が親しみやすい俳句を取り上げる。

<国語B>

- ◆【話すこと・聞くこと】目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題があります。
- ◆【書くこと】目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題があります。
- 【書くこと】目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題はよくできます。

【問題（例）】

問題例 水やりに協力してくれる人を募集する依頼を、必要な内容を整理して書く。

正答 【アドバイス】の中から2つの内容を取り上げて書いている。
（本校正答率：16.1%）

【要因】・【アドバイス】から1つのみ取り上げて解答する児童が3割おり、事実と感想、意見などを区別し、目的に応じて書くことができていない。

【改善策】・目的や意図に応じて簡単に書くという学習活動を、国語科だけでなく、各教科等において、意図的に設定する。

- ・自分の考えを明確に伝えるために、読み手に分かりやすく伝える文を書く活動を積極的に取り入れる。

【問題（例）】

問題例 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にし自分の考えをまとめる。

正答 【物語の一部】から言葉や文を取り上げ、そう考えたわけについて書く。
（本校正答率：46.4%、無回答率：25.0%）

【要因】・叙述を取り上げることはできているが「考えたわけ」について書けていない。

- ・60～100字にまとめて書く記述式の問題に苦手意識がある。

【改善策】・物語全体を見通すことができるような学習シートを用いたり、感想を記入したカードやノートの活用を図ったりする。

- ・全校で新聞記事の書き写しに取り組み、文章を書く機会を増やすことで、書くことに対する抵抗感をなくす。

<算数A>

- ◆【数と計算】四則計算の技能（四則の混合した計算、除法の結果を分数で表すこと）に課題があります。
- ◆【数量関係】未知の数量を表す口を用いて、問題場面を除法の式に表すことに課題があります。
- 【図形】図形に関する基礎的な問題は全国・県平均を上回っています。

【問題（例）】

問題例 加法と乗法の混合した整数と小数の計算 $(6 + 0.5 \times 2)$
 正答 7
 (本校正答率：50.0%)

【要因】・加法と乗法の混合した計算であるにもかかわらず、3割の児童が乗法を先に計算せず、 $6 + 0.5$ から先に計算してしまっている。(誤答：13)

【改善策】・計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにする。

- ・具体的な場面と関連づけながら理解できるように指導法を工夫する。
- ・視覚に訴えるように図に表し、比較しながら計算のきまりを確認する活動を取り入れる。

【問題（例）】

問題例 商を分数で表す。 $(5 \div 9)$
 正答 $\frac{5}{9}$
 (本校正答率：44.6%)

【要因】・除法の被除数、除数と商の分子、分母の関係が確実に理解できていない。2割の児童が分母と分子が逆になっていた。(誤答： $\frac{9}{5}$)

【改善策】・視覚に訴えるように、図を用いて、 $5 \div 9$ の場合は、「5Lの図を9等分し、その一つ分が $\frac{5}{9}$ Lになる」ことを説明する活動等を取り入れる。

- ・朝学習の算数タイムにおいて、類似の問題に数多く取り組み、理解を促す。

<算数B>

- ◆【量と測定】仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求めることに課題があります。
- 【量と測定】飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める問題はよくできます。
- ◆【図形】身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断理由を記述することに課題があります。

【問題（例）】

問題例 車が進んだ距離の平均を、7m20cmをこえた部分に着目して求める方法を記述する。
 正答 7m20cmをこえた部分の平均を求め、もとにした7m20cmにたす。
 (本校正答率：23.2%)

【要因】・基準とする数値が7m20cmに変わったことを捉えられていない。
 ・基準とする数値の差が0cmとなった記録を正しく捉えられていない。

【改善策】・グラフ、式、言葉などを関連付けて式の中の数の意味を解釈し、言葉や文で説明する活動を取り入れる。

- ・仮の平均の考え方を活用することで、平均を工夫して処理することができる場合があることを実感させる。

【問題（例）】

問題例 月の直径を硬貨の直径に置き換えて、100円玉と500円玉のどちらに近いか、理由と共に記述する。
 正答 最大の満月の直径を求めた後、100円玉と500円玉の直径との差を計算で求めている。
 (本校正答率：1.8%)

【要因】・月の直径を求める立式 (20×1.14) ができていない。
 ・基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることができていない。

【改善策】・数量の関係を身近なものや図などに置き換えて、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉えられるような指導をする。

- ・判断理由や解決過程を数学的に表現する機会を意図的に設ける。
- ・%と小数の関係を繰り返し確認する。

<質問紙調査から>

【質問内容】

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

(本校肯定的回答：85.7%)

※全国を13ポイント上回る結果であった。

本校では、様々な授業の中で、学び合う学習に取り組んでいる。子供たちは、自分の思いや考えを伝え合うことで学習意欲を高め、思考を深め、知識を身につけているという実感があると考えられる。「考え、話し合い、学び合う学習」の研究で得た学習方法を授業の指導の中で生かした成果が質問紙調査に出たと考えられる。

【質問内容】

読書は好きですか。

(本校肯定的回答：66.1%)

※全国を8ポイント下回る結果であった。

昨年度の質問紙調査からも浮き彫りになっている本校児童の課題である。しかしながら、昨年度よりは7ポイント上昇し、全国との差も縮まってきている。学校図書館の蔵書の充実や、学校全体での読書カードや読書月間の取組など、児童が本を手に取り、読書が好きになるような実践を継続している。今後も、学校だけでなく、家庭とも協力しながら、児童が読書に親しめる環境づくりに力を入れていく必要がある。



<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「平成29年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会）より抜粋

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成29年4月13日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと・書くこと	5	56.6	58.0%	4	51.5	57.5%	4	51.8	52.4%
読むこと	5	60.3	60.5%	9	63.4	63.2%	9	77.6	74.7%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	16	63.2	72.4%	17	71.0	72.2%	17	67.3	68.4%

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
数と計算	11	62.5	66.4%	12	65.0	66.2%	11	69.5	70.0%
量と測定	7	61.8	64.8%	6	50.0	52.6%	7	56.6	59.0%
図形	6	51.3	51.6%	7	70.6	66.9%	7	63.0	61.7%
数量関係	6	57.8	60.2%	7	58.0	56.1%	7	55.1	53.9%

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	90.6	90.2	96.4
		91.0	94.4	95.6
	② 授業開始時刻	93.8	92.2	96.4
		91.4	95.2	95.9
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	85.9	86.3	92.9
		84.0	87.6	89.1
④ 整理整頓	85.9	80.4	85.7	
	82.1	84.6	84.1	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	75.0	84.3	75.0
		81.2	82.1	82.1
	⑥ 返事	87.5	92.2	87.5
		87.9	90.0	88.1
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	84.4	90.2	91.1
		85.1	88.2	87.8
⑧ やさしい言葉づかい	81.3	92.2	83.9	
	84.1	85.7	83.8	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	81.3	90.2	94.6
		79.5	89.3	88.6
	⑩ 話を聞き発表する	78.1	88.2	71.4
		78.6	78.8	75.1
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	84.4	92.2	85.7
		82.7	86.9	86.8
⑫ 掃除・美化活動	85.9	90.2	91.1	
	87.0	88.9	87.7	

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 個別指導の徹底

- (1) チームティーチングや少人数指導などを行い、個に応じたきめ細やかな指導をします。
- (2) 単元開始前に児童の理解度を確認します。
- (3) ワークシートを用いた単元ごとの習熟度の確認をします。

☆2 言語活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間を確保します。
- (2) 教師が意図的に「理由」や「根拠」を問う発問をし、児童の思考を深めます。

■3 学習に対する態度の育成

- (1) 電子黒板などICT機器を活用した授業により、疑問や探究心を湧き立たせるような教材や指導を行います。
- (2) 教員による評価だけでなく、児童自身による自己評価や、児童同士による相互評価を日常化します。

授業以外の取組

☆1 家庭学習の習慣化

- (1) 10分×学年は家庭学習の時間を取りましょう。(1～3年生は30分)
- (2) 内容の精選、明確な指示、確実な点検を行います。
- (3) 家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定して意欲を高めます。

■2 朝勉強の見直し

- (1) 国語の課題を踏まえて、月曜日を国語タイムとし、全校一斉に読解ドリルに取り組みます。
- (2) 国語の課題を踏まえて、毎月第1水曜日を読書タイムとし、読み聞かせや一人読みをすることを通して、本に親しむ機会を作ります。
- (3) 算数の課題を踏まえて、読書タイム以外の水曜日を算数タイムとし、継続的に計算プリントに取り組みます。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン

1 学力向上プラン



かのうっ子の「確かな学力」の育成

1 時間毎の授業における具体的な指導法の改善

基礎的・基本的な知識・技能の習得（反復練習・具体的指導）を土台

見通しと振り返り

体験的・問題解決的な学習の推進

言語活動の充実

＝本校の組織的な研修による確かな学力の育成＝

◎学校課題研究（国語科）～確かな学力を育む授業の創造～

読む力を育み、学びを深め、意欲を高める指導法を研究

◎『考え、話し合い、学び合う学習』推進事業～思考ツールを活用した学び合いの創造～
主体的・対話的な学習を通して、思考力・判断力・表現力や学習意欲を高める研究のさらなる充実

課題を解決するために

- 1 わかる授業を展開するために、見通しと振り返りの充実を図り、各教科の特性に応じた授業方法について確認し、実践する。
- 2 他教科や日常の取組との関連を図り、言語活動の充実をより一層高めていく。
- 3 地域の教育力を積極的に取り入れ、体験的・問題解決的な学習を推進し、学ぶ意欲を高める指導の工夫・改善を図る。
- 4 知識・技能の確実な習得のために、個の学びに応じた指導方法・指導形態を工夫する。
- 5 知識・技能の確実な習得のために、保護者と連携し、家庭学習の習慣化、スキルアップと学び方の習得を図る。
- 6 思考力・表現力等（土台となる国語の力）の向上を図るため、学校・家庭が連携し、読書活動を推進する。

具体的方策

I 指導内容・指導方法の工夫

○国語力の土台の育成

- ・国語タイム（読解ドリル等）
- ・読書習慣の確立（環境整備・読書カードの活用等）
- ・国語コーナーの充実（語彙を増やす：ことわざ等）

○読む力の育成

- ・学校課題研究を通じた読む力を育む授業実践

○書く力・言語事項の指導

- ・国語辞典の積極活用 ・4段落構成の作文指導

国語科

○基礎・基本の定着

- ・計算チャレンジ（四則計算・当該単元の復習を毎時）
- ・家庭学習の手引きの活用と習慣化（家庭との連携）

○個に応じた指導の工夫と改善

- ・少人数指導やT T、必要に応じた補習の実施

○問題を読み取る力と活用する力の育成

- ・聞かれている内容への線引き、表や線分図の活用
- ・ノート指導とICT活用によるわかる授業

算数科

全教科領域を通して

○考え、話し合い、学び合う学習の実践

- ・学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等を育成（学期1回以上の思考ツールの活用・指導と評価の一体化）

○言語活動を意図的・継続的に取り入れた授業実践

- ・「伝え合う」「書く」活動を積極的に取り入れ、自分の考え等を表現させ、見届け、認める。（理由・根拠を明確に）
- ・読書環境の整備による学習意欲の向上（並行読書を各教科で進められるよう図書室に関連図書コーナーを設置）

<p style="text-align: center;">学習環境の整備</p> <p>○児童にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の積み重ね、児童の頑張りが見える学習掲示 ・学習のユニバーサルデザイン(簡潔・視覚にも訴える指示) ・教室の整理整頓、学習規律の徹底 ・学校図書館、PCルームの活用の活性化を図る。 <p>○教職員にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用による教材の共有化、事務処理時間の短縮による子供と向き合う時間の捻出を図る。 	<p style="text-align: center;">学校生活の充実</p> <p>○朝の活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソン、元気タイム、算数・国語タイム等の計画的な実践 <p>○児童会活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な取組。中学校との連携あいさつ運動 <p>○規律ある態度の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼に始まり礼に終わる。・もくもく清掃活動の習慣化 <p>○教育相談体制の充実</p> <p>○学校行事を通した一体感・達成感を味わわせる取組</p>
--	---

Ⅱ 教育課程への対応の工夫

<p>○主体的・対話的な学びを充実させる「学び合いマーク」を取り入れた年間指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践を通して、加除・修正し、実態に応じた学力を向上させる教育課程の編成 <p>○学校課題研究(国語)・考え、話し合い、学び合う学習(学び合い)の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の言語活動のより一層の充実 ・思考ツールの活用 ・指導と評価の一体化 <p>○各教科間の関連を考慮した単元配当の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ方やまとめ方、表現する力を一層効果的に育むため、単元配当を工夫する。 <p>○地域の教育力・家庭の協力を積極的に取り込む教育課程の編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に活用できるよう、地域人材活用ファイルを作成し、年間指導計画上にも印をつける。

Ⅲ 学習評価の工夫

<p>○年間指導計画に基づいた評価規準の見直しと改善、全職員による共通理解。</p> <p>○諸調査結果の分析・考察による児童の実態把握を、指導と評価の改善に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務による第1次分析・考察 → 学年担任による第2次分析・考察 → 全職員での共有 <p>○評価計画の作成(形成的評価・個人内評価を行い、個に応じた指導を充実させる。)</p> <p>○思考ツールの活用による学びの可視化を評価に生かす。(本校の研修実践を通して)</p>
--

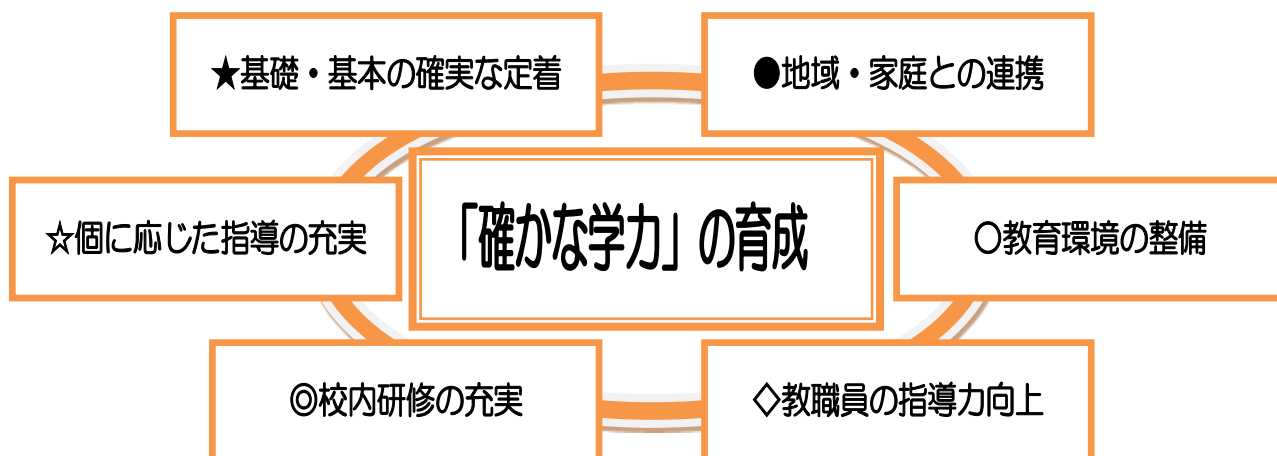
Ⅳ 保護者・地域との連携を通して

<p>○全国・埼玉県学力・学習状況調査に関する情報や検証結果等を公表し、学校の学力向上への取組を知らせ、保護者・地域への啓発と協力の要請を行う。</p>	
<p style="text-align: center;">保護者</p> <p>○懇談会、個人懇談会等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の学力についての積極的情報交換 <p>○家庭学習の充実(家庭学習の手引きの活用)</p> <p>○規則正しい生活(早寝・早起き・朝ご飯、決まった時間の学習)</p> <p>○学習ボランティアの依頼(家庭科、生活、総合等)</p> <p>○様々な教育場面での学校公開</p>	<p style="text-align: center;">地域</p> <p>○学校応援団による効果的な学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア(本の読み聞かせ)の活用 ・学習ボランティアの活用 ・環境整備活動への協力 <p>○ゲストティーチャーの活用</p> <p>○地域教材の開発・活用</p> <p>○児童を見守る体制</p> <p>○学校行事等への協力</p> <p>○小中連携の推進</p> <p>○桶川高校生の学習ボランティア</p>

中長期的な学力向上を見据えて

<p>★PDCAサイクルの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関する諸取組に関して成果と課題を検討し、その後の学習指導の改善に生かすサイクルを全職員で確立する。 <p>★教師の授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間の設定(教職員間で互いの授業を見合い授業力向上を図る取組)・組織的研修(学校課題研究等)

2 確かな学力を身につける「6つの視点」



- (1) 基礎・基本の確実な定着 (★)
 - ア 各教科における言語活動の推進
 - イ 業前活動の充実 (算数・国語・元気・読書タイム・読み聞かせ)
 - ウ 各教科におけるスキルアップタイム (既習事項の定着) 実施
- (2) 個に応じた指導の充実 (☆)
 - ア 少人数指導・TT指導の効果的実践 (算数科)
 - イ 教育指導補助員の効果的配置・実践 (算数科・書写・図画工作科・音楽・体育科等)
- (3) 校内研修の充実 (◎)
 - ア 指導方法の工夫・改善
 - イ 国語科の授業研究会を計画的に実施
- (4) 地域・家庭との連携 (●)
 - ア 家庭学習 (手引き・音読・読書) の啓発と協力依頼による家庭学習の習慣化
 - イ 学力・学習状況調査の結果・考察の公表と、授業公開・懇談会等による連携
 - ウ 地域の人材を活用した体験的学習の実施と地域人材ファイルの作成
- (5) 教育環境の整備 (○)
 - ア 各学級の学習コーナー・各学年の学習コーナー・だいおうまつくんの国語教室の設置
 - イ 教材備品の整備・補充・廃棄による効果的な活用を促す教材室
- (6) 教職員の指導力向上 (◇)
 - ア 年2回の授業公開週間 (自己申告シート・教員同士が授業を見合い、高める)
 - イ 学校課題研修授業研究会・示範授業の実施
 - ウ 実技伝達研修会・各教科等の研修会の実施

2 確かな学力を身につける授業「4つのキーワード」

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を土台に
- (2) 見通しと振り返りのある授業
- (3) 体験的・問題解決的な学習の推進
- (4) 言語活動の充実

教師は「根拠や理由」
を問う！



3 各教科・領域の手立て

(★基礎基本の確実な定着☆個に応じた指導の充実◎校内研修の充実●地域・家庭との連携○教育環境の整備◇教職員の指導力向上)

	【課題】 ・ 手立て等
国 語	<p>【書くこと・読むこと（説明的文章）・要旨・段落の相互関係・文法・語彙】</p> <p>●読書と音読の習慣化。 ◇自分の考えを文章化する活動・発表する機会を必ず設ける。 ★書く機会を多くもたせる。（日記・段落構成の明確な作文・本の紹介：家読全員参加・スピーチ原稿）</p>
社 会	<p>【基礎・基本となる知識を身につける・資料や情報を的確にとらえ、表現・考察する】</p> <p>★基礎・基本となる知識を増やすスキルアップタイム（既習・地図記号・都道府県・世界地図・歴史人物等） ★資料の見方の確実な定着。 ◇体験的な学習、資料から読み取り考察する学習を充実させ、発表する場を設ける。</p>
算 数	<p>【公式を活用して解く・二つ以上の段階を経て求める問題・図形・割合・概数・考え方の説明】</p> <p>◎問題内容の把握を深める線引きの徹底。関連キーワードを用い、見通しを持たせた授業展開。 ★計算チャレンジ（既習事項の定着・四則計算）の継続実施。問題提示の工夫。 ◎学び合いの場を取り入れ思考の深まりのある授業実践（昨年度までの課題研修を引き継ぐ）。</p>
理 科	<p>【予想と関連づけながら考察・科学的な言葉や概念を活用して結果をまとめる・日常生活との結びつき】</p> <p>★観察、実験等の体験的学習をもとにした言語活動を充実させる。（結果と関連させ、根拠を明らかにして表現する） ◇学習内容が日常生活のどのような場面に生かされているのかを取り上げ一般化する。★スキルアップタイム ◎条件や実験結果を比較検討しながら、学び合いを通してまとめを練り上げ全員で共有する授業実践。</p>
体 育	<p>【反復横跳び・確実な技能の習得と運動の習慣化・器械運動】</p> <p>◇運動の系統性を全職員で共通理解し、当該学年で身につけるべき技能習得させる授業実践。 ★加納っ子体操、全力走の継続実施。 ◇技能指導を十分に行い、動きのポイントを押さえた上での言語活動を充実させる。</p>
生 活	<p>☆児童の思いや願いを生かし、気づきの質を高める授業展開。 ◎簡単な思考ツールを用いた学び合いの導入。</p>
音 楽	<p>★用語・楽譜の読み、リズム等の基礎的な知識をクイズ形式で出題し、定着を図る。 ○記号、楽器等の掲示をする。 ◇新しい楽曲に取り組む際の導入を工夫する。 ☆個別指導の時間を確保する。 ★演奏を聴き合い、よさを伝え合い、表現力を高める。</p>
図画工作	<p>★クロッキータイムの実施。（技能の確実な定着） ☆自分の思いを元にイメージや発想を広げられるようなワークシートの工夫をする。 ○本時のめあてをわかるように示す。 ☆発想・構想を豊かに引き出す声かけをする。 ◇用具の使い方を丁寧に指導する。校内実技講習による指導力向上。</p>
家 庭	<p>★栄養指導（知識・食育）の年間を通じた継続的指導。 ●家庭の協力を得て、実践を通し家庭での役割を自覚させる。 ★実習を通して、「段取り能力」を身につける。 ☆調理・製作の過程を掲示し、順序を明確にする。</p>
外国語	<p>○ICTの活用により、様々な感覚を活用して、外国語を身近なコミュニケーションに感じられるようにする。 ◇動作化やICTの活用により、日本と外国との生活、習慣、行事などの共通点や相違点に気づくようにする。 ★アルファベットでの英語表記を積極的に導入・指導し、音声に加え文字による外国語の感覚を養う。 ◎小中連携を積極的に行い、小学校段階で身につけるべき内容を教職員で共通理解・共通指導する。</p>

総合	◇調べる活動・まとめる活動・伝える活動を充実させる。【探求活動の一層の充実】 ◇相手意識をもち、活動したことを生活に生かしていく。【課題意識の明確化と実践意欲の高揚】 ○ICTの活用と情報モラルの育成。
道徳	◇物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方について考えを深める。 ☆思考ツールの活用により考えを可視化し、指導と評価を充実させる。 ◎相対した価値を大切に話し合い、考えあう道徳授業の実践。
学級活動	◇自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動。 ★学級会ノートを活用し、自分の意見を事前に考える。 ◎友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、よりよい意見を考え出す力をつけるとともに、折り合いをつける力を育成する。

*あわせてICTと学校図書館の効果的活用を図り、児童の確かな学力を育成していく。

ICTの活用	・教材の共有化	○教材・プリント等のデータを共有。 →教材研究や子供と向き合う時間の有効活用。 →効果的な指導方法の継承。
	・学習評価の電子化	○通知表の電子化。 →教材研究や子供と向き合う時間の有効活用。 →指導と評価の一体化。
	・ICT支援員の活用	○研修の計画実施により「できること」を増やす。 →全教職員ができることを増やし学習効果を高める。
学校図書館の活用	・環境整備と家庭への啓発	○調べ学習で活用できる蔵書を増やす。 →辞書や本を手にとる機会を増やすよう啓発。 (ネットによる調べ学習の利便性と同時に難しさ・著作権に関しても子供たちへ指導する。) ○司書教諭を中心とした図書館環境の整備 →貸し出し冊数の増加による読書習慣の定着。
	★年間15冊の貸し出しを目指し、日々の読書習慣確立に向けた働きかけを充実させる。	
	・「本」で調べる学習の充実	○学習内容と関連した蔵書があるゾーンを明示。 →本を探す時間の短縮による学習効率の向上。
	・並行読書ゾーンの設置	○国語教材の並行読書の働きかけ。 →発展学習の働きかけと読書習慣の定着。

保護者・地域の皆様へ

☆読書の好きな児童を育成したいと考えております。ご家庭でも児童への声かけをお願いします。(「うちどく」コンクールの取組などを機に、本と一緒に手にとる機会が持てたらよいですね。)

☆家庭学習の習慣を身につけさせたいと考えております。まずは、学習する環境を整え(学習中はテレビを消す、身の回りの整理整頓、良い姿勢で学習に取り組む等)られるようご協力いただくと嬉しいです。学校においても、学習の見届けを行いますが、ご家庭でも学習する姿を見守ったり、ノート等の点検をしていただいたりすると、効果がさらに高まります。

☆「時」を守り、「場」を清め、「礼」を正す。加納中学校と連携し、9年間で一貫した生活指導を心がけておりますので、「かのうっ子のやくそく」を守らせてください。ご家庭においても参考にさせていただける内容だと思っております。